

キバナアツモリソウ

Cypripedium yatabeanum Makino

ラン科

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

絶滅危惧 I B 類

選定理由

日本全体でも稀産の植物である。本県では絶滅したと考えられていたが今回の調査で数株確認された。
(現況:RO)

形態

葉は2枚あって互生であるが、節間が詰まって対生状、葉形は広楕円形で先端は鋭形。茎は高さ10~30cm、茎頂に径3cm、黄色の花を横向きに1個生じる。エゾノクマガイソウ var. *guttatum* は側花弁上部がくびれない点でだけ、本種キバナアツモリソウと異なる。

国内分布

東北地方と本州中部地方にのみ産する。エゾノクマガイソウは北海道から、広く北米北西部、アジア北東部、さらにヨーロッパ東部にわたる分布域を持つ。

県内分布

白山高地区。

生態など

地生の多年生草本。開花期は6~7月。

生育環境

亜高山帯の夏緑樹林の林床または草原。

危険要因

園芸採取、産地局限。



白井伸和・2006年7月6日・白山

分布図はありません。